

小学校社会科における港湾に着目した単元・授業開発

Unit / Class Development Focusing on the Port in Elementary School Social Studies

菊 地 達 夫
KIKUCHI Tatsuo

I はじめに

自明の事ではあるが、社会系教科では、学習対象となる社会的事象すべてが注目されるとは限らない。例えば、工業立地では、立地因子として、原材料、最終製品、工場を取り上げる。日本の工業は、加工貿易で高度経済成長を遂げ、後に水平貿易へ移行した。とりわけ、加工貿易の確立には、港湾の存在がある。他方、その港（港湾）は、学習対象となることは少なく、その様子が教科書の写真に掲載される程度で、本文でもあまり触れられない。

日本は、領土を海洋に囲まれており、地殻変動による海岸地形が複雑に入り込み、多数の天然良港に恵まれている。日本の三大工業地帯は、中京、京浜、阪神であるが、伊勢湾、東京湾、大阪湾に、港と工場の集積地が形成された。

その後、他のアジア地域も、加工貿易を目指す動きが続いた。例えば、韓国、中国（香港や上海）、台湾、シンガポール、マレーシアである。これら地域に共通する点は、海洋に面しており、そこに港を築き、その後背地に工業地域を形成している。海上輸送は、他の輸送手段（航空・陸上）と比べ、大量（重量）の貨物運搬を可能とし、送料も相対的に安価であることが大きい。

本稿の目的は、小学校社会科における工業生産の単元に着目し、港湾の役割や重要性に気付かせる単元・授業開発を行うことである。社会系教科では、事象間における関連付け、統合、比較といった見方・考え方を重視している。今回は、社会的事象となる港（港湾）に注視し、他の事象（学習内容）との関連付けや統合を行う。

さて、小学校社会科における工業生産を取り上げた先行研究・実践には、以下のような成果（例）がある。

岡崎（2018）は、工業生産と貿易の単元において、説明型の授業を実践した。社会科授業は、問題解決型、理解型、説明型、意思決定型の4タイプに分けられるとし、それぞれの特色と問題を示した。その後、仮説吟味学習を用いて授業改善を行い、主体的な学び、対話的な学び、深い学びに有効であることを強調した。

工業生産と貿易の検証授業では、工場立地に関する発問を行い、インフラ整備等「社会の視点」といった児童の発言を引き出している。インフラ整備には、港湾や空港を含む。よって、

工場立地において、港湾の重要性に気付かせる働きかけは、実践しているものと判断できる。

菊地（2015）は、日本の工業地域を題材として、小学校・中学校社会科の接続・連携を目指す授業開発を行った。具体的には、小学校と中学校の学習内容と特色を示し、その違いから、どのような学習内容の積み上げができるか、明らかにした。小学校の場合、工業地域の分布の要因と貿易を介しての外国とのつながり、中学校の場合、工業地域の変容の要因と世界からの影響といった学習内容の違いを示した。その結果、中学校の学習内容は、小学校の学習内容に時間軸の視点と空間軸の拡大が加わる点を指摘した。この違いを双方の学校教員が意識することで、接続・連携が深まることを示唆した。

これらの研究（学習指導案）では、インフラ整備や海岸（付近）といった用語は登場するものの、港や港湾といった用語は出てこない。児童には、工業生産を支えている港（港湾）の役割について、ある程度の気付きを与えているが、その深まりはわからない。本稿では、その深まりの実現に向けた単元・授業構想に近づきたい。

Ⅱ 見方・考え方の視点や枠組み

本稿では、単元・授業開発を行う方向性として2つ重視した。1つは、学年冒頭単元との関係性である。小学校社会科の学年冒頭単元は、それ以降を学習する上での基盤となっている。第5学年の場合、国土の自然環境（自然地理的内容）を学習し、以降の経済・産業学習（農業、工業、情報など）につながる。他方、以降の単元では、冒頭単元の学習内容を、どのように関連させるか明確になっていない。これら関連付けを具体的に示すことで多面的な考察を実現する。

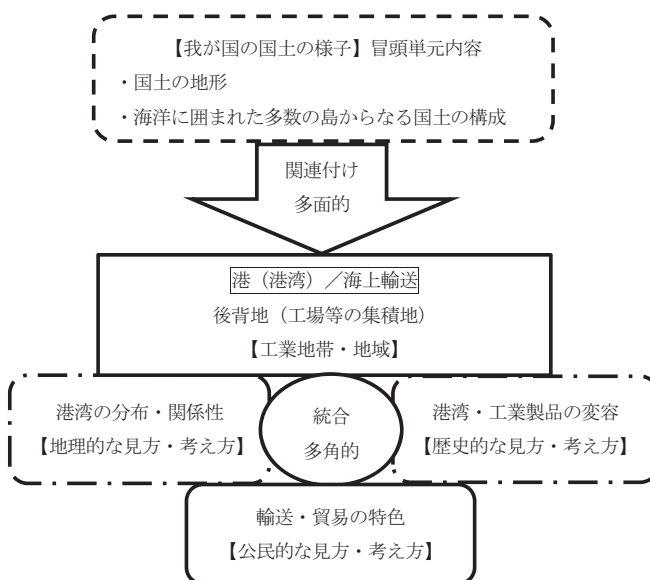


図1 単元・授業開発の方向性（構造図）

2つは、他の見方・考え方の意図的導入である。周知のとおり、小学校社会科の学習内容は、中学校社会科と比べ、総合性が強い。小学校では、単元内容に応じて、地理的・歴史的・公民的内容の中心的な枠組みを示した。この結果、小学校と中学校の学習内容の接続・連携を実施しやすくなった。一方、中心的な内容を示したことで、枠組みを超えた多面的や多角的な考察をしにくくなった。今回の学習内容は、公民的内容を中心とするが、地理的・歴史的な見方・考え方を意図的に導入し、多角的な考察を実現する。

以上、単元・授業開発は、工業生産の学習場面において、多面的・多角的な考察を働かせ、港湾（海上輸送）の役割や重要性といった認識の深まりの実現を目指す。

Ⅲ 単元・授業の構想

1 単元「我が国の工業生産」の概要

単元（3）「我が国の工業生産」は、現代社会の仕組みや働きと人々の生活（公民的内容）の経済産業を中心的な内容の枠組みとし、小単元イ（ウ）「貿易や運輸」は国際関係、イ（ア）「工業の盛んな地域の分布」は地理的環境と人々の生活（地理的内容）の日本、イ（ア）「工業製品の改良」は歴史と人々の生活（歴史的内容）の日本となる。

ある検定教科書（新学習指導要領対応）の目次をみれば、工業生産、自動車工業、輸送と貿易、今後の工業生産といった項目からなる。工業生産では、工業地域の分布や特色を、自動車工業では、自動車のほかに、造船業、製鉄業、石油工業、食品工業も取り上げている。輸送と貿易では、国内の工業製品の輸送、輸出や輸入の特色を、今後の工業生産では、工業生産の特色、伝統工業、町工場、課題を取り上げている。

これらの学習内容は、中学校社会科において、公民的分野のA（1）「私たちが生きる現代社会と文化の特色」、A（2）「現代社会を捉える枠組み」、さらに小単元B「私たちと経済」（1）市場の働きと経済、（2）国民の生活と政府の役割、地理的分野のC（2）「日本の地域的特色と地域区分」とC（3）「日本の諸地域」へ接続する。

今回の単元・授業開発は、工業生産の単元の内、ア（ウ）やイ（ウ）といった運輸・貿易に関する小単元で取り上げる。

表1 小学校学習指導要領社会編（工業生産の学習内容）

【我が国の工業生産】

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）我が国では、様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。

（イ）工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するような様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。

（ウ）貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解すること。

（エ）地図帳や地球儀、各種の資料を調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (ア) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 (イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
 (ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。

(内容の取扱い)
 アの (ウ)
 原材料や工業製品の輸出入の特色、原材料や工業製品の輸出入や工業製品の出荷には、海上輸送、航空輸送、陸上輸送など日本国内や世界の交通網が使われていることなどを基に、貿易や運輸の役割について理解することである。
 イの (ウ)
 交通網の広がりに着目するとは、原材料の確保や製品の出荷のための高速道路、鉄道、航路などの交通網、陸運や海運などの輸送手段と、輸送の際の工夫や努力について調べることである。その際、運輸業や倉庫など物流に関わる人々の動きや港湾や空港といった施設などに触れるようにすることも考えられる。

資料) 文部科学省 (2018) : 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説社会編』 日本文教出版。

2 単元・授業構想

小単元 (運輸・貿易) は、5 時間構成 (標準45分授業) とし、以下に単元目標 (知識、技能／思考力・判断力・表現力、主体的学習態度)、単元計画 (概要) を示す。続いて本時は、第5次のまとめとして行い、本時の目標 (知識)、展開、評価 (知識) の順で構想した。

導入部は、港 (港湾) の機能 (役割・重要性) を予想する段階である。前時までの国内の輸送、輸出入の学習内容から、港 (港湾) は、多くの工業製品を取り扱い、偏在があることを振り返らせたい。

展開部は、港 (港湾) の役割に着目し、多面的・多角的な考察を働かせる段階である。まず、冒頭単元内容との関連から、主要な港は、どのような海岸地形に位置するか、調べ思考させる。それらは、湾、河川下流の低地に位置することに気付かせる。続いて、主要な工業地帯と近接する港との関係性に気付かせる。とりわけ、工業地帯名と港名が違うため、どの工業地帯とどの港が近接するか、確認させる。次に、なぜ、海上輸送 (工業製品の輸出入等) に依存しているのか、調べ思考させる。とりわけ、他の輸送手段と比べ、どのような利点があるのかを気付かせる。最後に、海上輸送の貨物量 (割合) を示し、港湾の役割や重要性が高いことを再認識させる。他方、空輸 (成田空港) では、どのような工業製品を取り扱っているか、確認させる。

終末は、港 (港湾) の役割・重要性を認識できたか確認する段階である。加え、日本の貿易には、どのような課題があり、その解決策として、どのようなことをすべきか、発展的・応用的に学習意欲を高める段階でもある。これらの思考は、以降の学習内容、中学校社会科地理的・公民的分野へのつながりにもなる。

単元目標

- 1 輸送や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているか、理解できる
(知識)
- 2 貿易や運輸の様子を捉え、港湾(海上輸送)の役割・重要性について考え、表現できる
(技能/思考力・判断力・表現力)
- 3 輸送や貿易について、仮説(予想)や価値的知識(発展)を表出している
(主体的学習態度)

単元計画(概要)

時程	●学習課題(主発問) ○具体的知識(学習課題の解答例)
第1次 つかむ	●輸送や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているか ○貿易額の上位は成田空港、名古屋港、東京港、横浜港、神戸港の順で、港湾利用が多い。
第2次 調べる	●国内の工業製品の輸送は、どのような手段が多いか ○近年は、自動車が50%、船が40%、鉄道が10%となっている。
第3次 調べる	●日本の輸入は、どのような特色があるか ○地下資源(石油、石炭、天然ガス)はほぼ100%輸入である。ただ、近年は機械類の輸入も増加している。
第4次 調べる	●日本の輸出は、どのような特色があるか ○近年は、高度な機械類(例:集積回路)の輸出が多くなっている。
第5次 まとめる (本時)	●日本の港湾(工業製品の搬出入)は、どのような支えになっているか ○本時案参照

【本時の目標/知識】

日本の港湾(工業製品の搬出入)は、どのような役割・特色について、前時までの学習内容と関連付けながら理解できる。

	教員の発問・指示	児童が身に付けてほしい知識
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の確認 ●日本の港(港湾)は、工業製品の輸出入等で、どのような役割を果たしているだろうか(予想)。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題】 日本の港湾(工業製品の搬出入)は、どのような支えになっているか。</p> </div>	工業地帯(地域)に近接する港から、多くの工業製品等を輸出入(移出入)している。
展開 30分	<p>学習活動1(地理的な見方・考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●貿易額上位港(1位の成田空港は除く)、どのような共通する地形に位置するだろうか(資料:地図帳)。 <p>学習活動2(地理的な見方・考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●貿易額上位の港は、3大工業地帯とどのような関係性があるだろうか(資料:地図帳)。 	<p>名古屋港は伊勢湾、東京港と横浜港は東京湾、神戸港は大阪湾に位置する。また、河川下流の低地である。</p> <p>中京は名古屋港、京浜は東京港、横浜港、阪神は神戸港といった港・後背地の関係にある。</p>

展開 30分	<p>学習活動3（公民的・地理的な見方・考え方） ●海上輸送は、他の手段と比べ、どのような利点があるだろうか（資料：教科書の写真や本文，社会科資料集）</p> <p>学習活動4（公民的・歴史的な見方・考え方） ●貿易量の資料（海上輸送は99%以上）と先の貿易額上位港をみて、わかったことは何か（資料：教科書の本文・統計，社会科資料集）。</p>	<p>船舶の速度は遅いものの、大量（重量）の貨物を取り扱える。</p> <p>貿易額では、成田空港（空輸）が1位であったが、貨物量のほとんどは海上輸送（港湾）が担っている。また、成田空港（空輸）は、付加価値の高い、軽量の電子部品や半導体関連の製品に特化している。</p>
終末 12分	<p>【具体的知識＝学習課題の解答】 港（港湾）は、海岸地形を活用して築き、その後背地に工業地帯（地域）を形成し、ほとんどの工業製品等を近接地の港から輸出入（移出入）し、海上輸送の重要な拠点（支え）となっている。</p>	
	<p>■ワークシートに港（港湾）や海上輸送の役割や重要性を書くよう指示する。 □日本の貿易には、どのような課題があるだろうか、その解決策として、どのようなことをすべきだろうか。</p>	<p>海上輸送に依存することへの弊害（有事、価格変動、環境への影響など）</p>

本時の評価基準例（観点別評価：知識）

<p>評価A（高評価） 地理的・歴史的な見方・考え方を含む（多面的・多角的な考察）</p>	<p>・港は、<u>海岸地形（湾・河川下流の低地）</u>を活用して築き、その後背地に<u>工業地帯（地域）</u>を形成し、ほとんどの工業製品等を近接地の港湾から輸出入（移出入）し、海上輸送の重要な拠点となっている。</p> <p>・また、<u>成田空港（空輸）</u>は、付加価値の高い、軽量の電子部品や半導体関連の製品に特化している。</p>
<p>評価B（標準評価） 公民的な見方・考え方</p>	<p>港（港湾）は、ほとんどの工業製品等を近接地の港湾から輸出入（移出入）し、海上輸送の重要な拠点となっている。</p>
<p>評価C（低評価）</p>	<p>港（港湾）は、海上輸送の重要な拠点となっている。 *なぜ、重要であるか理由の記述がない。</p>

IV 単元・授業開発の意義

本章では、II章における単元・授業開発の方向性をふまえ、その意義の可能性について、具体的に述べる。

1つは、冒頭単元内容との関係性を明確にできた点である。国土の様子では、自然地理的事象として、河川や平野の分布、湾の位置等を学習する。中京工業地帯では、木曾川、濃尾平野、伊勢湾、京浜工業地帯では、利根川（江戸川）、関東平野、東京湾、阪神工業地帯では、淀川、大阪平野、大阪湾といった自然地理的事象からなる。結果、工業地帯には、河川（下流）、平野（低地）、湾といった共通性があり、そこに名古屋港（名古屋市）、東京港（東京都・横浜市等）、神戸港（神戸市）・大阪港（大阪市）を築き、形成した。すなわち、自然地理的事象と

工業地帯・大都市の形成には、因果関係があることを浮き彫りにできた。

2つは、多面的・多角的な考察を実現できた点である。多面的とは、社会的事象を別の側面から思考させるものである。工業地帯の立地では、原材料、最終製品、工場といった立地因子に加え、港（港湾）の重要性に気付かせた。多角的とは、社会的事象を別の視角から思考させるものである。すでに述べたように、地理的な見方・考え方として、3大工業地帯の自然環境を比較し、関連事象の共通性を浮き彫りにできた。また、歴史的な見方・考え方として、上位の成田空港（空輸）の工業製品に着目させ、その特色に気付かせた。さらに、公民的な見方・考え方として、貿易の貨物量に着目させ、海上輸送（港湾利用）の極端な偏在を再認識できた。

以上の学習過程により、港（港湾）の役割や重要性の認識を深めることができると考えられる。

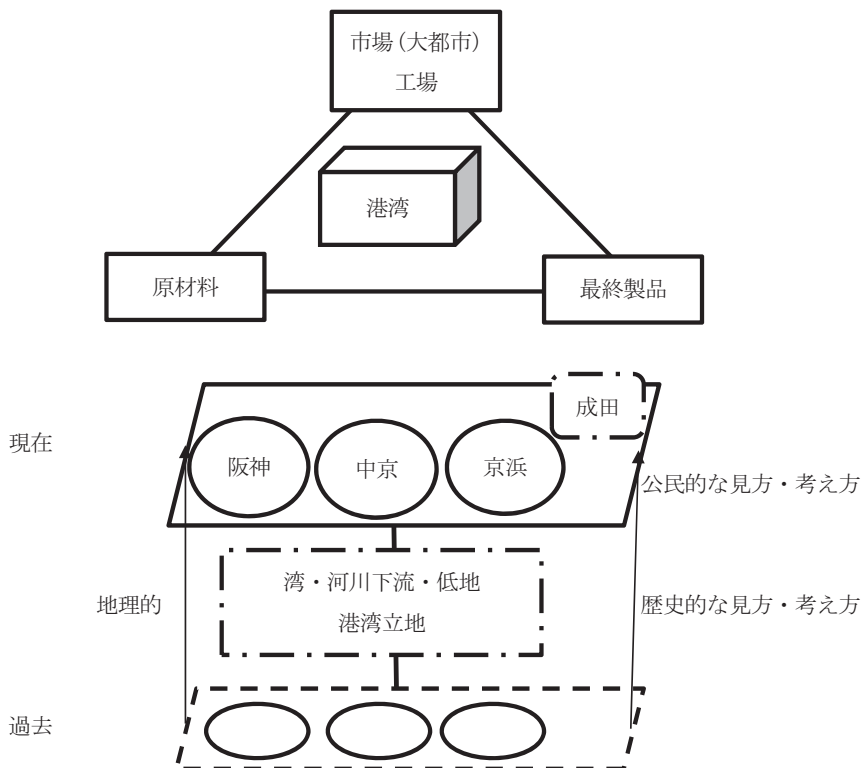


図2 単元・授業開発の意義の可能性（構造図）

注）上は多面的な考察，下は多角的な考察，冒頭単元内容との関係性。

V おわりに

本稿の目的は、小学校社会科における工業生産の単元に着目し、港湾の役割や重要性に気付かせる単元・授業開発を行うことであった。まず、単元・授業開発の方向性を2点示し、それに基づく単元・授業の構想を明らかにした。続いて、単元・授業開発における意義の可能性を示唆した。以下では、本稿の成果として、どのような新規性と有用性があると考えられるのか、述べる。

新規性は、社会的事象の1つとしての港（港湾）の役割や重要性を、輸送や貿易の関連から明らかにできたことである。輸出入品のほとんどは、港（港湾）の貨物として扱われている。他方、貿易における輸出入額や量は、数値で表され、港（港湾）の存在に気付きにくい。その課題の払拭に役立つことができた。

有用性は、冒頭単元内容との関係性、多面的・多角的な考察といった学習活動の汎用性につながったことである。今回は、工業生産の単元であったが、農業や情報といった産業の学習内容でも、同じような構想を当てはめることができる。また、産業の成立や発展、衰退等には、自然地理的事象との因果関係が深い。そのため、地域的な広がりやその変容といったように、地理的・歴史的な見方・考え方を働かせる発問を導入できる。

今後の課題は、工業生産・地域に関する学習成果を中学校社会科へどのように接続させるかである。アジア地域全体をみれば、日本の国際拠点港湾（重要拠点港湾）は、韓国、台湾、中国等の大規模港との格差が生じ、ハブ港としての役割・機能が低下している。そのような課題を組み入れるとすれば、地理的分野のアジア州の諸地域学習が考えられる。ただ、世界の諸地域学習では、地球的課題からのアプローチを指摘している。例えば、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題を挙げている。よって、中学校社会科における港（港湾）の教材化は、小学校社会科とは異なり、関連事象としての組み入れとなろう。

文 献

- 岡崎誠司（2018）：「説明」型5年生単元「工業生産と貿易」の授業改善、『社会科授業4タイプから仮説吟味学習へ』、風間書房、pp.135-139.
- 菊地達夫（2015）：小学校・中学校社会科地理における接続・連携に関する授業開発―地な見方・考え方を中心として―、北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第15号、pp.19-30.
- 澤井陽介・唐木清志編（2021）：『小中社会科の授業づくり』東洋館出版社。